

@@

立命館大学スポーツ健康科学研究センターBeActive研究会
「BeActiveニュース」第12号 2016年8月22日（月）

@@

執筆者：塩澤 成弘（スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科・准教授）

■2016年度学会発表

- ・「多点電極表面筋電図を用いた動的運動時における神経支配帯位置の推定」
第55回日本生体医工学会大会（5/27）
概要：多点電極を用いた筋電図波形から神経支配帯の位置を推定する手法を明らかにした。この成果を用いることで動的運動中の筋出力推定精度の向上が期待できる。
- ・「Accuracy Verification of the Electrocardiogram Measurement by the Smart-Wear」
38th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society（8/19（予定））
- ・「Effects of minute electrical noise on input-output gain of alpha motor neuron group」
生体医工学シンポジウム2016（9/17（予定））
- ・「Estimation of Signal Source Location inside the Human Brain using Switching Voltage Dividing Electrodes」
生体医工学シンポジウム2016（9/17（予定））
- ・「膝関節のテーピングが大腿四頭筋に及ぼす影響の検証」
生体医工学シンポジウム2016（9/17（予定））

■今後参加予定の関連学会（上記以外）

- ・第24回バイオメカニクス学会大会
開催地：立命館大学びわこ・くさつキャンパス（2016/9/12-14）
- ・計測自動制御学会
ライフエンジニアリング部門シンポジウム2016
開催地：大阪国際交流センター（2016/11/3-5）
- ・13th International Conference on Ubiquitous Healthcare
開催地：会津大学（2016/10/29-30）

■現在、力を入れている研究

- ・着るだけで生体計測ができる服型生体計測装置（smart-wear）の開発研究を推進しています。
日常生活に入り込んだ運動や生理量といった常時生体計測は、スポーツや医療など様々な分野から注目されています。
一方で現状の計測機器は取り扱いが難しいだけでなく不快感を伴うものも多く、多くの人が使いつけるまでには至っていないという課題があります。
普段着ている服を服の機能や着心地を残したままセンサ化することでこれらの課題の解決が期待できます。

@@

2016. 8. 22 Vol. 12. txt

スポーツ健康科学研究センター
BeActive研究会
公式ホームページ

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/spoken/index.html>

研究会イベント、シンポジウム情報、及びメルマガバックナンバーなど掲載！